平成２９年度　政務活動費　先進都市調査報告書

会派名	市政協同
議員名	我妻静夫・古澤孝市・徳中嗣史・金濱元一・岡田健一・早川昇三・南川達彦・黒光ひさ・鈴木和彦
調査実施年月日	平成29年5月10日
調査先　自治体名等	岐阜県可児市
調査項目	地域課題懇談会について
調査目的	議会改革について
報告内容 実施したこと	1　視察先（市町村）の概要 人口：　101，297人（内外国人6，226人6．1%）　41，085世帯 （H29．4．1現在） 行政面積：87．57㎢ 2　視察内容 可児市では、議会における議会改革の取り組み、とりわけ地域課題懇談会について視察を行った。 はじめに、議会改革の経過、内容、地域課題懇談会で取り組んだ高校生議会やママさん議会について可児市議会議長他2名の議員から説明を受けた。 可児市議会の取り組みは、①アイデア→気づき、②インスピレーション→ひらめき、③アクティビティ→行動力、④コミュニケーション→相互理解、⑤インプルメンテーション→実施、⑥レギュレーション→規定を基本とし、議会改革では議会活性化特別委員会の設置、大学との連携、議会基本条例の制定、議会報告会の開催、政治倫理規定の制定、地域課題懇談会の開催、議会提案による空家等の適正管理に関する条例制定、議会改革のためのアンケート調査の実施、高校生議会の開催、ママさん議会の開催等さまざまな取り組み経過について説明がされた。 大学との連携の取り組みは、議員の資質向上を図ることを目的に名城大学都市情報学部教授のゼミに参加し、地方自治や時事問題について意見交換を行い知見を深めているとのことであった。 また、議会改革のためのアンケート調査については、質問選定から封入・郵送、集計・分析に至るまで全て議員が実施し、第1回（平成23年2月）の結果では市議会に関心がない36．7%、議員の活動内容を知らない64．2%、市民の声が市議会に反映されていると感じている6．4%と厳しい現状と議会改革を進める必要性を再認識したとのことであった。その後さまざな取り組みを進め、第2回（平成28年1月）の調査結果では、議会改革について議会だよりを毎回読んでいる人の31．4%が進んでいると回答し、進んでいるとは思わないを上回った。今後の可児市議会が取り組むべき課題については、市民の意見を聴く意見交換会の充実が44．9%と最も高く、続いて議員の資質向上が44．2%となった。これらを踏まえ、議会の見える化の推進、①更なる情報公開の徹底、②議会だよりを軸としたわかりやすい広報の展開、市民の意見を聴く意見交換会の充実に取り組むとのことであった。

	地域課題懇談会（高校生議会）の開催にあたっては、キャリア教育支援として可児高校が求める大人と関わる機会と議会が求める若い世代の意見を聴取する機会を設ける方向が合致し、高校生議会に先立ち、可児高校が実施するキャリア教育について、目的や内容などを把握するため研修会を開催した。高校生議会の目的は、各種団体等の協力を得て、若い世代の意見を聞く機会を設け、地域の活性化や課題に取り組むことで地域の担い手育成に繋げていくとし、議会主催のキャリア教育支援の取り組みを地域課題懇談会（高校生議会）として実施したとのことであった。これまで地元医師会、金融協会、商工会議所の協力による開催、１８歳選挙権を課題に可児高校にて出前講座としての開催、高校生による模擬選挙の実施が行われてきたとのことである。このような地域課題懇談会の開催により、地域の状況を知ることで高校からの進路を変更し、ふるさとへ戻ってくることを決意する生徒や、この経験から現在ＮＰＯとしてキャリア教育支援の活動をしているＯＢ生徒がいること、１８・１９歳投票率が全国より7ポイント、岐阜県より4ポイント高かったとのことである。 また、昨年初めて実施されたママさん議会では、子育て拠点施設の運営に関する意見交換ワークショップを行い、まとめた結果を報告、子育て世代の女性の声を聴く機会をもうけることについての意見書を提出したとのことであった。
感想（まとめ） 本市へ生かせること 等	議会運営では、ICTを活用した委員会運営や重点事業点検報告書が参考になった。特に重点事業点検シートの活用により単純な数字等を聞かなくて良いというものであった。 議会の見える化では、議会の情報発信については、議会だよりは年４回（年４回は室蘭市議会も同様）フルカラー化、タイトルの見直し、ケーブルテレビによる本会議の生放送および各種告知、FMラジオ、ホームページ（室蘭市議会も同様）、ユーチューブ、グーグルカレンダー等、電子媒体の活用、議会主催による議会報告会を公民館で実施していることが参考になった。 また、議場を使用した取り組みでは、可児市議会熊本被災地視察報告会、子ども議会、高校生議会、ママさん議会、６月議会においてはバラの花を飾り、議場コンサートの実施など、議場の使用について参考になった。とりわけ、高校生議会やママさん議会では、まとめた結果をその場で報告し最後に意見書として議長へ提出していることが取り組みのまとめとして重要であると感じた。 議会が主催して開催している地域課題懇談会については、議員が参加者と一緒になってワークショップを実施することにより、議員は参加者の意見を聞くことができること、参加者は議員がより身近に感じることができる良い機会になる手法であると感じた。 室蘭市議会としても、今後さらに取り組みが必要になる議会改革を進める上で参考になることが多々あった。一方、行動することで議員の日程が非常に過密になることも報告されていたのが印象的であった。地域事情や歴史の違いはあるにせよ、今後も議会改革についてはさまざまな観点から、他議会の研究を進めていく必要があると感じた。